

## マタイによる福音書14章28-31節 「失敗しても進む信仰」

### 1A 勇気を出す信仰 28-29

- 1B イエスの命令
- 2B 信仰の一步を踏んだ勇士
- 3B 失敗をする勇気

### 2A 歩く後に来る落ち込み 30

- 1B 勝利の後の敗北感
- 2B 主の御名への叫び
- 3B 主の救いの御手

### 3A 疑い 31

- 1B 手を伸ばされる主
- 2B 強風への焦点
- 3B イエスを見る訓練

## 本文

マタイによる福音書 14 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びはマタイによる福音書の 14 章まで来ています、午後の礼拝で 14 章を一節ずつ読みます。今朝は、28-31 節に注目します。「28 するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。29 イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。30 ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」」

水の上をイエス様が歩かれていたという、驚くべき奇跡です。けれども、もっとすごいのは、ペテロがなんと、「水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言って、少しだけ歩いたことです！ペテロの信仰による一歩、その勇気は称賛に値すると思います。

ところで、私たちは先週、「ファーザーズ」という映画を観ました。お父さんたちが出てきますが、それぞれがいろいろなところで、「勇気」を試されました。この映画の原題は、Courageous であり、「勇気のある」と訳すことのできるものです。あるお父さんは、自分が向き合っていなかった息子に向き合っていっしょに、マラソンの練習に出て行きました。また別のお父さんは、職場で不正を上司から命じられて、それを行わなかったら仕事を辞めなければいけないと言われました。次の日に、「それでもできません」と勇気を出していったら、実はそれはテストで、彼は管理の仕事を任せられ、昇進しました。また、あるお父さんは実は、結婚していませんでした。出来ちゃったのですが、

その子が生まれたのに結婚をせず、会いもしませんでした。勇気を出して手紙を書き、二人に会うようになりました。こんなこともありました。そして、彼らは警官なのですが、その一人がなんと押収した麻薬を、一部横領していて、仲間を摘発しなければならなかったのです。大きな勇気です。

### 1A 勇気を出す信仰 28-29

勇気というのは、「しなければいけない」ということを分かっているながらも、ずっと避けているような問題があったり、仲間を告発した時のように、もし行なったら大きな摩擦や確執が起こるかもしれないなど、恐れとの葛藤の中で、しなければいけないことをすることです。ヤコブは、「なすべき良いことを知っていながら行わないなら、それはその人には罪です。(4:17)」と言いました。エドワード・バークという英国の政治思想家は、「悪が勝利するのに必要なのは、善人が何もしないことだ。」と言いました。ですから、勇気をもって、しなければいけないことをするという事は、本当に貴いことです。

### 1B イエスの命令

そこには、ペテロのような経験をします。水の上を歩くような経験です。普通に歩いて行けば、必ず沈んでしまうほど、「来なさい」と言われたイエス様から目を離すことはできません。自分がもはや、自分で救うことはできず、イエス様に絶えず、瞬間瞬間、助けられ、救われていかなければいけない生活です。「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。(ガラテヤ 2:20)」

ここでペテロが、イエス様に「**水の上を歩いてあなたのところに行かせてください**」と言った時に、主を試したのではないか？という意見があります。私は、それは違うのではないかと思います。以前、弟子たちは舟の上で、イエス様の奇蹟を目撃していたからです。(マタイ 8:23-27)湖が大荒れとなっているのに、イエス様はぐっすりとおられました。弟子たちは、「主よ、助けてください。私たちは死んでしまいます。」と言いました。そして、イエス様は「**どうして怖がるのか。信仰の薄い者たち。**」と言われて、風と湖を叱りつけられると、凧になりました。何をもち、信仰が薄いとイエス様が言われたのでしょうか？舟が沈みそうになっているのに、ぐっすり眠っておられるイエス様のほうが、非常識なのではないのでしょうか？いいえ、こう書いてあります。「**イエスは群衆が自分の周りにいるのを見て、弟子たちに向こう岸に渡るように命じられた。(8:18)**」向こう岸に渡るように命じられていたのですから、向こう岸に渡るのです！イエス様は、命じればその通りになることを、ずっと示しておられました。イエス様の言葉には権威があり、力があるのです。

ですから、ペテロは決して「水の上を歩きます」などと、イエス様のことをただ真似て、主を試すようなことをしていません。「**主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください**」主が命じられるのであれば、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください、

と行ったのです。主が命じられたことをそのまま信じて行う大切さを、ペテロは知っていたのです。このように、主が命じられていることがあって、それをそのまま行おうとする時に、ペテロと同じように、大胆な一歩を踏み出すことがあります。

## 2B 信仰の一歩を踏んだ勇士

聖書の中には、数多く、信仰の一歩を踏み出した勇士たちが出てきます。アブラハムは、信仰の父と呼ばれているように、その一歩を踏み出した人でしょう。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。(創世 12:1)」と命じられましたが、「どこに行くかを知らずに出て行きました。(ヘブル 11:8)」どこに行くのかを知らずに出て行き、カナンの地に着いてようやく、「ここがあなたの所有する土地だ」と言われたのです。ダビデはどうか？彼は少年であったのにも関わらず、巨人のゴリアテと対峙して、なんと石を投げて相手を殺してしまいました。ヨナタンもそうでしょう。ペリシテ人との戦いがありました。道具持ちと立った二人で、ペリシテ人の陣営にはいり込みました。岩をよじ登って、乗り込んでいったのです。どの人たちも、次にどうなるのかという見通しは付かない中で、けれども、主が御心としておられるという確信の中で行動に移しました。

## 3B 失敗をする勇氣

けれども、ペテロの信仰の一歩を見ると、すぐに水の中に沈みそうになって失敗しています。これならば、やらなかったほうがよいのではないか？という評価を、多くの人が下します。はたして、そうなのでしょう？こんな言葉があります、「失敗をしなかった人を見せてください。私は、何も行わなかった人によって、見せてあげましょう。」これは、まるでペーパードライバーだけれども、運転していないのでゴールドになっているような人のようなものです。

失敗のように見える結果になって、それで多くのクリスチャンは、「あなたのしたことは、御心ではなかったんじゃないの？」という人たちが多いです。けれども、そういうことを言うクリスチャンは、実はもう一つの大きな罪を犯しそうになっています。「安全志向」「現状維持」という罪です。自分の抛り頼み、自分の世界から抜け出そうとしない罪です。不信仰の罪と言ってもよいでしょう。前進していないクリスチャンは、現状維持を続けているのではなく、実は後退しているのです。

## 2A 歩く後に来る落ち込み 30

### 1B 勝利の後の敗北感

ペテロの水上歩行は、長続きをしていません。沈みかけています。信仰の一歩を踏み出した人たちも、しばしば、次に大きな敗北感を味わうことがあります。

エリヤが、バアルの預言者と対決した時のことを思い出してください。エリヤは、450 人のバアルの預言者と、祭壇にあるいけにえを火で焼き尽くすのが、まことの神であるという対決を行い、

それで彼はイスラエルの神に祈り、天から火が降り、焼き尽くしました。その後です、エリヤはイズレエルにいるイザベルに、エリヤを殺すと誓いを立てたのですが、それで恐ろしくなり、長い長い逃避行を繰り返しました。そして、あまりにも落ち込んだので、死にたいとまで願ったほどでした。同じように、サムソンはたった一人で、ろばのあご骨でなんと、千人のペリシテ人を打ち殺しました。その後でこんなことを言っているのです。「あなたは、しもべの手で、この大きな救いを与えてくださいました。しかし今、私は喉が渇いて死にそうで、無割礼の者どもの手に落ちようとしています。(士師 15:18)」

それもそのはず、信仰の一步というのは、敵陣の中に入って行くものだからです。信仰を持っていない時に問題があって、それで信仰を持ったら問題がなくなるというのは、いわゆるフェイク・ニュースです！信仰を持っていない時は、敵の支配の中にあつたのですが、持つことによって解放されました。そして敵陣の中に入って、信仰の戦いを繰り返します。ですので、信仰の一步を踏むということは、それだけ敵の深部に入り込んだということです。主にあつて大きな一步を踏み、大きな勝利を得るならば、次にサタンが待っているのです。主はいつも、御国のすばらしい姿を幻で見せてくださり、それから再び現実の罪に満ちた世界の現実をお見せになります。

## 2B 主の御名への叫び

けれども、信仰の一步を踏む時には必ず、救いの御手があります。主にあつて一步踏み出したのですから、主が責任を取ってくださるのです。そこで必要なのが、主に呼び求めることです。「**主よ、助けてください**」とペテロが叫んでいます。

私たちは、自分たちが自分の力や能力ではどうしようもない地点に立たされます。その時に、私たちは自分以外のものに、藁をもすがる思いで寄りすがります。その時に誰に、どれに寄り添がるのでしょうか？この世においては、数多くの人がお酒に拠りすがります。ある人は、ゲームかもしれませぬ。ある人は、オンラインでデート相手を見つけようとするかもしれませぬ。そして多く人が、自殺に解消を求めようとします。けれども、自分自身を越えてしまった時に、叫ぶ方がおられます。「主」です。「私の心が衰え果てる時、私は地の果てから、あなたを呼び求めます。どうか、及びがたいほど高い岩の上に、私を導いてください。(詩篇 61:2)」

## 3B 主の救いの御手

そして、「**イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかん**」だとあります。主は、ご自分の名を呼び求める者のすぐ近くにおられるのです。イザヤ書に、こんな約束があります。「30:19 あなたの叫び声に応え、主は必ず恵みを与え、それを聞くと、あなたに答えてくださる。」どれだけ、その助けは近いでしょうか？ローマ人への手紙 10 章によると、助けを得るために天に上ることもなく、地の深みに行く必要はない。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。(10:8)」すぐ近くにあり、口にあり、それで主の名を呼び求めれば、主はすぐに救ってくださいます。

### 3A 疑い 31

#### 1B 手を伸ばされる主

そしてイエス様は、「**信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。**」とされています。ここでイエス様が、叱りつけていわれたのではないと思います。なぜなら、既に救いの手を伸ばして、彼が安心して途中で語っておられて、おそらく微笑みながらお語りになったのではないか？と思います。イエス様は、ここでペテロが信仰の一步を踏み出したことを喜ばれながら、なおかつ信仰によって踏み出すことができるように、信仰の手ほどきを教えられたのだと思います。

#### 2B 強風への焦点

そこで、なぜペテロは沈みかけたのでしょうか？30 節に、「**強風を見て怖くなり**」とあります。私たちが信仰によって前進したのであれば、そこで見てはいけないのは問題です。強風みたいなのは、必ず吹いています。それに目を留めていると、自分の立ち位置が分からなくなり、靈的に沈んでしまいます。問題に焦点を当てると、そこに「**怖くなり**」とあるように、恐れが入ります。人間の戦い、いや動物の中での戦いは、基本的に「どれだけ相手に恐れを植えつけるか」という戦いがあります。ある映像で、小さな犬が玄関先にやって来た子熊二頭を追い払っているものを観ましたが、なぜ追い払えるのでしょうか？勢いよく襲いかかったので、相手に恐れを植えつけたのです？恐れがあると、相手の実態よりもっと大きな力があると思ひこませます。アッシリアとの戦いで、エジプトに逃げようとしていた者たちについて、イザヤが預言しました。「30:17 一人の脅しによって千人が逃げ、五人の脅しによってあなたがたは逃げる。」

#### 3B イエスを見る訓練

しかし、恐れと信仰は相容れません。言い方を変えれば、イエスを信じ、この方を見れば恐れは退きます。恐れると信仰が退かれますが、信仰があれば恐れが退かれます。一步、信仰によって踏み出したら、いつもイエス様だけを見て行く訓練が必要です。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。(ヘブル 12:2)」イエス様に目を留めて行きましょう。この方のみが、私たちの焦点です。イエス様がなされることに目を留めて、それで恐れとの戦いに打ち勝ちます。

イエス様が言われました。「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。(ヨハネ 14:1)」